

# 対エーレスラント戦計画第二弾

## 概要

本作戦はエーレスラントとの停戦・講話交渉決裂に伴い立案された。この作戦に勝利は初めから想定されておらず、それゆえ達成判定はない。

## 目標

本作戦の目標は、なるべくエーレスラントに被害を与えることである。つまり、勝つことは目標ではないし、また自国への被害は一切顧みない。国力、戦力、またこれまでの戦闘結果から我々が勝つことがまずありえないのは火を見るより明らかである。この戦いが終わった後無条件降伏、ないしは降伏することになるだろうが、我々カリフォーニエン＝ドイツはただではやられない、ただでは降伏しないということはエーレスラントだけでなく世界中に示すことにより、長期的に見て戦後の我が国の外交と、我が国の子孫たちを有利な立ち位置にすることが目的である。

上述の理由により、本作戦では核兵器、生物兵器、核汚染物質を使いたいいわゆる、「汚い爆弾」の使用をためらわず積極的に行う。

繰り返すが、少しでもエーレスラントに被害を与える、これが本作戦の目的である。攻撃目標を大別すると、①エーレスラント国土、②エーレスラント国民、③エーレスラント経済、④エーレスラントの財産、および公共財産と社会インフラ、⑤政府、王族、社会的上流階級層、⑥世界各国の対エーレスラント感情、およびエーレスラントの国際的評判である。これらを徹底的に攻撃し、破壊し、汚染し、傷つける。これが本作戦の、なにより目指すところである。

## 参加兵力

### 陸軍

- ・基幹戦力…再編8個師団18万人（予備役招集を含む）
- ・第一次動員（開戦前に訓練および編成完了）…40万人
- ・第二次動員（訓練中に開戦、よってこれ以降の兵力はルールに基づき参加不可）…122万人
- ・根こそぎ動員…490万人

根こそぎ動員490万はルール上参加不可、よって国土の治安維持や警察・消防補助、さらに輸送や補給等直接戦闘に関与しない後方支援を担う。さらにエーレスラント上陸軍（以後上陸軍）と会敵したこの部隊は、民兵として防衛を行う。

- ・MBTレオパルト2…160両
- ・203mm自走榴弾砲…755両
- ・203mm榴弾砲…960門
- ・120mm迫撃砲…1150門
- ・対戦車ロケット砲…300門

- ・長距離ロケット砲…300門
- ・地对艦ミサイル発射基地…サンタローザ島、サンクレメンテ島、サンタカタリナ島（以上ロサンゼルス防衛用）計3
- ・地对地ミサイル発射基地…サンタローザ島、サンクレメンテ島、サンタカタリナ島（同じく、ロサンゼルス防衛用）、サウスイーストファラロン島<sup>1</sup>（サンフランシスコ防衛用）計4

#### 空軍

- ・第4.5世代マルチロール機60
- ・第5世代主力戦闘機20（F35-A）
- ・攻撃機40
- ・練習攻撃機40
- ・大型輸送機5
- ・早期警戒機4
- ・中型輸送ヘリコプター10
- ・観測機4
- ・対空ミサイル発射機16基…サンタローザ島、サンクレメンテ島、サンタカタリナ島、サウスイーストファラロン島に4基ずつ配備

#### 海軍

- ・原子力潜水艦10（個艦搭載ミサイル数80）
- ・通常動力型潜水艦24（個艦搭載ミサイル数45発）
- ・汎用フリゲート16…うち9000トン級10、9000トン級6（イージス艦）
- ・アーセナル艦4
- ・汎用駆逐艦50…うち18機は対潜ヘリコプター搭載能力あり

#### 近衛師団

- ・残存近衛師団700…うち660人を遊撃ゲリラ戦に従事、本土に配備
- ・遣ブランダンプルク近衛師団残存兵力400…ブランダンプルク降伏前にエーレスラント領内に侵入

#### その他

- ・情報工作員（参謀本部-国家情報局所属）560
- ・現在運用中の人工衛星160基、および打ち上げ済みの65基あわせて全225基の、GPS誘導で制御可能な人工衛星
- ・民間から徴収した120万台の乗用車、7万台のトラック…輸送部隊として軍が利用
- ・警察特殊部隊、対テロ部隊、消防組織は軍の指揮下に置かれる…計30万人

## 作戦の展開

作戦は5つの段階を追って行われる。

第一段階ではエーレスラント本土に情報工作員を侵入させ、ブランデンブルク降伏前から潜入している残存遺ブランデンブルク近衛師団と連絡を取る。これでエーレスラント国内で破壊・混乱工作を行い、この後行う国土攻撃とあわせてダメージを与える。さらに、工作員の存在により国土の治安維持・防諜用に敵戦力の一部を国土に残さざるを得なくさせ、長期的に見て本土決戦の時間稼ぎをし、妨害行動も行う。

第二段階では先制核攻撃を含むSLBM攻撃により、エーレスラント国土に直接打撃を与える。上述した攻撃目標、すなわち①エーレスラント国土、②エーレスラント国民、③エーレスラント経済、④エーレスラントの財産、および公共財産と社会インフラ、⑤政府、王族、社会的上流階級層、⑥世界各国の対エーレスラント感情、およびエーレスラントの国際的評判を第一段階の攻撃とあわせて破壊することを目指し、これにより戦後も確実にエーレスラントにダメージを残すことを目標とする。本作戦唯一の外征行動である。

続く第三段階、第四段階で本土決戦の時間稼ぎと妨害行動を行う。

最後の第五段階が、本土決戦である。

これより順にそれらを解説していく。

## 1. 工作員のエーレスラント潜入、および破壊工作

原子力潜水艦8、および通常動力型潜水艦24の計32隻は、北極海ルート、および東回り南アメリカ大陸経由大西洋ルートで敵機動部隊、また監視網を避けつつエーレスラント本土に接近。夜間を狙ってスカンディナビア半島北西部より工作員を上陸させた後<sup>2</sup>、東グリーンランド海流を利用してエンジンを切った状態でゆっくりとスコットランド北部沖北方に移動。そのままエンジンを切った状態で第二段階の攻撃を待つ。

一方でエーレスラント領土内に潜入した工作員560人はブランデンブルク降伏後よりすでに潜入済みの残存近衛師団400名と連携をとりつつ、国内の破壊工作・攪乱工作を行う。彼らの攻撃目標は以下のとおり。

- ・大都市、中規模都市、中核都市での自爆テロ
- ・ユーロポート、オスロ港での自爆テロ…戦時中、および戦後のエーレスラント海運にダメージを与える

- ・主要鉄道、高速道路、幹線道路での自爆テロ、および破壊工作

潜入工作員にとって、一番ばれにくく高速道路を破壊するやり方は例えばレンタカーを借りて、数カ所で同時多発的に玉突き事故を起こすことである。爆発性のある積荷のトラックなどを利用するとさらに効果はてきめんだ。大量の爆薬を用いて高速道路や幹線道路を破壊することは一番望ましいやり方ではあるが、発見のリスクも高い。一方で同時多発的な大規模事故は渋滞を引き起こし、高速道路の集中司令室を混乱・麻痺させるのでコストも安上がりで一定の効果を実に確実にあげることになる。工作員らはまず最初に爆薬等を使った物理的な破壊を試みるが、それに失敗した場合順次これを行っていく。これにより、鉄道網と道路網でエーレスラントの陸上物流にダメージを与える。

- ・オーレスンリンクの爆破、または上記事例と同方法により一時的に使用不可にする。

旧デンマークとスカンディナビア半島北部を結ぶこの道路は、我が国でいう東京湾アクアラインに近い構造であり、外的要因による破壊に弱い（半分が海底トンネルのため）。この道路は欧州地域全体から見ても主要な道路の一部であり、エーレスラント物流だけでなく経済にも甚大な被害をもたらす。

- ・主要空港の破壊

先進国の空港はテロ警備が厳しく、これは難しいと思われる。「成功すればもうけもの」のような感覚で行うが、破壊目標は核攻撃、およびいわゆる「汚い爆弾」の攻撃目標であるコペンハーゲン・ストックホルム・ロッテルダム・アムステルダム・オスロの5都市内主要空港である。

- ・偽札流出によるエーレスラント国内経済へのさらなる攻撃

場合によっては通貨の変更が必要になるかもしれないし、そうでなくとも国家は対策に注力せざるを得なくなる。いずれにせよ、カリフォルニア本土上陸のための敵国家リソースを1mmでも分散させることが第一である。

- ・王室への悪質なプロパガンダ

例えば王女カスカータ・アルノのヌードコラージュ、王室への侮辱的なメッセージを含むポスター、標語、絵画はエーレスラント国民および軍を激怒させるだろう。1945年の沖縄戦で日本軍は上陸アメリカ軍の陸軍中將を戦死させたが、激怒した現地部隊は報復として占領地での殺戮行為などがあったと言われている。同様にカリフォルニア国民・国家への憎悪を持ったまま上陸する敵上陸軍はカリフォルニア本土で戦争犯罪を起こしやすくなると思われる。エーレスラント人や国家そのものに対してステレオタイプの、人種差別的なポスターをばらまいたり、エーレスラントを醜悪に描いた風刺画が国内に流通していれば敵はどう感じるだろうか？「負け犬がなにかほざいている」とは言えないのだ。カリフォルニア国防軍は陸空軍にほとんどダメージを受けておらず、さらには国土もまだ直接的な被害を受けていない。それに対してエーレスラント国民からしたら、軽微とはいえ国土に攻撃を行い、さらに今回こうやって工作員を潜入させることに成功しているカリフォルニア＝ドイツは負け犬には見えないだろう。

さらに王室へのプロパガンダではないが、カリフォルニアへの憎悪を煽るような流言を流布することによっても同様の効果を狙う。この目標とするところは目標⑥：世界各国の対エーレスラント感情、およびエーレスラントの国際的評判である。

- ・工作員の存在そのもの、またエーレスラント防諜部員

これらは直接的な攻撃目標ではないが、工作員がエーレスラント領内にいることそのものが敵に対する負担となる。防諜部員とあわせて、国内治安維持などの観点から敵に対して確実に負担を強いるだろう。彼らがエーレスラント国内で基本的人権を無視した残虐な拷問や刑罰を受けるなら、それも前述した攻撃目標⑥に対する攻撃になるのだ。

## 2. 敵本土攻撃

計32隻の潜水艦隊はスコットランド北部沖北方まで退避する。原子力潜水艦は計640発、通常動力型潜水艦は計1125発の各種ミサイルを搭載し、敵本土に対してミサイル飽和攻撃を行う。核SLBMについては敵のすぐれた防空システムを考慮して、全発多弾頭核ミサイルとなっている。カリフォルニアが保有する核戦力のうち200発を用意し、一つの核ミサイルには10個の核爆弾が内蔵されているので2000もの核兵器がエーレスラント領内に降り注ぐことになる。これを100%防ぐことは絶対にありえない。さらに、通常弾のミサイルは一般の高性能爆薬の他に汚い爆弾（核廃棄物、呼吸器系感染症や結核、チスフ、鳥インフルエンザ、サーズ、C型肝炎等の感染症患者の死体組織片、また家畜感染症感染個体の死体組織片、使用済み注射針や血液、体液、便、尿などを含むバイオハザード規制対象の医療廃棄物、および炭疽菌）が全発に搭載されている。これにより（1125発のSLBMを全発迎撃することは一般的に考えてありえないが）仮に上空で迎撃されても内部の汚染物質が散布・拡散されることにより敵国土に確実に被害をもたらすことが念頭に置かれている。

核ミサイルおよび汚い爆弾搭載通常弾道弾は総計1765発となり、同時に飽和攻撃を行う。

ミサイルによる攻撃目標：

核ミサイル計200発はシェラン特別区とアムステルダムに55発ずつ110発、ストックホルムとロッテルダムに45発ずつ90発。

通常弾道弾はシェラン特別区、ストックホルム、ロッテルダム、アムステルダム、オスロ、コペンハーゲンの五都市に全1125発発射。一都市あたり225発が振り分けられることとなる。

さらに、人工衛星による攻撃も行う。人工衛星にも汚い爆弾を搭載し、前述した通り仮に全基撃墜されても敵上空で確実に被害を与えるように計画されている（カリフォルニアの終末攻撃計画）。エーレスラント側は衛星用攻撃手段として主に「重粒子線照射による内部機構の電子的ハードキル」といった電子戦的戦略を持っている。このため人工衛星は通信手段が破壊されても攻撃ができるように、内蔵されたアナログ式時計によりあらかじめ攻撃時間を設定されてある。言ってみれば一つの巨大な時限爆弾であり、電子攻撃をされても問題なく大気圏突入し、GPS誘導により目標地点目指して落下する（GPS誘導機能が故障した場合内蔵地図データをもとに制御落下するため、誤差数百m）。

人工衛星による攻撃目標：

シェラン特別区、アムステルダム、オスロ、コペンハーゲンに40基ずつ計160基。

### 3. 本土攻撃潜水艦隊の行動

攻撃に参加し、作業員を上陸させた潜水艦隊は、

- ・エーレスラント艦隊がまだ出港前、または会敵できた場合…全滅するまで魚雷攻撃を続ける
- ・エーレスラント軍艦に会敵できない、または位置を発見され逃げたが脱出に成功した場合…北海、スカンディナ비아半島海峡部で自爆自沈、これにより湾内の海上交通を妨害する。スカンディナ비아半島の海峡部は第一回目のSLBM攻撃（前回作戦提出時）によりかなり底浅の海域であることがわかっているため、大型潜水艦が多数自沈することで海域内の航行を不可能、または著しく困難にする。

参加した潜水艦の大きさは、原子力潜水艦が18000トンクラス、通常動力型潜水艦が6000トン級クラスである。

### 4. 本土決戦までの時間稼ぎ

時間軸的には本段階は最も最初に行われる軍事行動である。

ベーリング海峡に大規模機雷源を設置、空軍の全力出撃（早期警戒機を飛ばし敵が北極海を渡りきる前に実行する）および朝ソからの支援によりリースされた制空型戦闘機200により機雷設置中の航空支援を確保する。機雷源設置と同時にベーリング海峡（水深45m）でアーセナル艦を除く残存大・中型艦はここで自沈し、当海域航行を著しく困難にする。ただし、敵がここを通らず南太平洋・パナマを通り本土へ来た場合にはこの海域で自沈せず早期警戒機とともに本土西海岸で待機、上陸部隊艦隊と艦隊決戦する。その場合は全滅するまで攻撃を続ける。

敵上陸妨害準備として、ゴールデンゲートブリッジを破壊、ここを堰き止め簡易的に障害物を置く。これにより敵がサン・パブロ湾内部、サンフランシスコ湾内に侵入することを困難にする。さらに大型タンカーや客船などの民間船、残存海軍艦艇を自沈させ湾内の航行を困難にし、上陸妨害を行う。同様の措置をロングビーチ、サンティエゴ臨海部でも実施。西海岸の海岸線は南部に行くほどなだらかで、北部ほど複雑な地形（特にサンフランシスコへの入り口）をしている。このため北部では自沈を中心とした物理的妨害を行うのに対して、南部では大陸棚に魚雷発射コンテナを9000基設置しておく。これは海底に事前に沈めておく装置で、ソノブイと有線で接続、パッシブソナーで音響探知と同時に長魚雷（1基あたり4発）を発射するものである。これにより多方

向からの同時飽和攻撃で敵上陸艦隊の揚陸艦に攻撃を行うことで、妨害を行う。ミサイル発射基地はこの段階までに偽装を含めて完成させてある。

敵のSLBM攻撃を警戒して、朝鮮ソビエトよりリースされている対潜攻撃機300は最後までパナマ方面からの敵潜水艦を発見、攻撃し続ける。発見叶わずに敵上陸軍が上陸を開始したら全機特攻。

本土沖またハワイ沖に潜水艦を配置、敵が上陸して本格占領が開始された段階で核攻撃。第二段階で行ったように潜水艦はエンジンを停止させ、「行方不明」の状態にさせておく。このようにすることで敵は膨大な物資を揚陸し始めるのだ。核SLBMは20発。

核ミサイルによる攻撃目標：

ハワイに6発、カリフォルニア本土に14発。敵の本格占領が開始されてからの攻撃なので、とりわけ敵軍、野戦軍、司令部施設に攻撃する。

## 5. 本土決戦

大前提として、陸軍はエーレスラントからの核攻撃を乗り切ることが目標とされる。そのため我が軍がSLBM攻撃を開始する前にシエラネバダ山脈内に疎開、核攻撃が終わってから以下の防衛ラインに戻る。

本土沖潜水艦はエンジンを切って海底にて待機。「行方不明」になり発見されないことが目標。この潜水艦は最後の「報復兵器」として第四段階で前述したとおりに動く。

本土決戦はさらに細かい幾つかの段階に従って行われる。

① 海岸線の地雷原を敵が突破後、高速道路5号線まで無抵抗、ここを第一決戦ラインと定めて砲兵火力一括投下。一方でサンタローザ島、サンクレメンテ島、サンタカタリナ島、サウスイーストファラロン島からミサイル攻撃を実施（ロサンゼルス、サンフランシスコの敵軍を攻撃）。シエラネバダ山脈内に秘匿された残存空軍で航空支援。

さらに、水道、秋の農作物を毒汚染。海岸部に核廃棄物を海中投棄。これにより敵は本土内で水道や農作物を補給できなくなり、さらに海水をろ過して飲めなくなるため水不足は深刻になる。国内に存在する全55基の原子力発電所を意図的に炉心融解させて周辺地域から撤退。

→敵が後退を始めたなら、ロサンゼルス・サンフランシスコ奪還作戦。MBTや残存自走砲を含む機械化部隊で攻撃を行う。成功した場合都市部を一時逆占領し、ゲリラ戦態勢を整えたのちに主力部隊は撤退。

→敵が後退しない場合・状況が不利な場合は第二決戦ラインへ

② プラマス国立公園、タホ国立公園、ヨセミテ国立公園、シエラ国立公園、セコイア国立公園のシエラネバダ山脈東側を第二決戦ラインと定めて残存砲兵火力一括投入。山脈内の残存空軍は航空支援を行う。

→敵の侵攻が止まった場合、人工衛星攻撃（残存する65基で敵占領地、特に海岸に近い兵站補給上重要な部分に攻撃。詳細は第二段階の人工衛星攻撃を参照されたい）を開始

→敵の侵攻がなおも続く場合、敵野戦軍に人工衛星攻撃を開始、同時に第三決戦ラインへ後退。

③ シエラネバダ山脈全体を第三決戦ラインとし、山脈内で残存陸軍はゲリラ戦開始。このために地理感覚に明るい西部出身の兵士らは意識的に残存させておき、ここでゲリラ戦に従事させる。敵が山脈を超える（4000m級の山脈を大規模軍を超えることは不可能に近いが）、または迂回を完了しないうちに最終決戦ラインへ。この時点までに国道6号線、395号線のベントンおよびオランチャに地雷を設置、以降5kmごとに地雷を設置し敵のシエラネバダ迂回を著しく困難にする（地雷を破壊しても道路は破壊されるため、修復に時間が掛かる）。

④デスバレーを最終決戦ラインと定める。残存兵士らに砂漠迷彩服を支給、ここで組織的抵抗が可能な限り抵抗を続けた後、終戦。

我が軍は本作戦のすべての段階に渡って勝利を目的とはしない。それはこの本土決戦の段階でも同様である。一方で敵上陸軍は汚染された土地を占領し続けることになり、非常なストレスに苦しめられるほか長期的に渡って確実にダメージを残す。

## 5.5 ロサンゼルス防衛戦

近衛師団660人はロサンゼルス北方のエンジェルス国立森林公園内に拠点を置き、主に夜間にロサンゼルス市内に侵入、敵の妨害・混乱・破壊を実施。

- ・電子戦により上陸軍の電波妨害、攪乱など…発電所直結の高出力ECMおよびECCMを設置済み。さらにロサンゼルス都市部ではビルやマンションの屋上に電子戦装備が設置されている（民間人の避難が完了しているため）
- ・指揮官、将官クラスの暗殺
- ・司令部の爆破
- ・市内の重要拠点のピンポイント攻撃
- ・散発的なゲリラ攻撃、ゲリラ戦
- ・鹵獲兵器を用いて敵部隊に偽装、欺瞞行為、偵察行為、敵兵站の破壊、略奪

<sup>1</sup> いずれもGoogleの日本語検索で位置確認が可能。

<sup>2</sup> <https://goo.gl/maps/2oj1FvZxps9MfzxN9> 付近